平成28年(2016)
阿づまの光
12月号・Decembro

教主さまお作 灰釉茶盌 銘「紅花」

【金龍海土＋リオプレット土・教主さまお手植えみろく村べニバナ釉】

題字出口直日

通巻第573号
発行 大本東京本部
東京宣教センター
センター長 浅田秋彦
〒110-0008
東京都台東区池之端2-1-44
TEL 03-3821-3701
FAX 03-3821-5283
振替 00160-5-72625
URL http://oomoto-tokyo.com
Mail tokyohonbu@oomoto.or.jp

今月の聖言

つくるなき愛の泉はとことはに
生命の水と湧き出でにけり

出口王仁三郎聖師

ギャラリーおほもと（東光苑）オープン！

東京宣教センター次長　猪子　恒

この度、東京宣教センター1階の応接室が改修され、ギャラリーがオープンしました。

教主さまからは「ギャラリーおほもと（東光苑）」とお名前をいただきました。東光苑秋季大祭の11月13日朝、テープカットが行われ、今、お筆先、お軸、耀盌「ミろく」、教主さまの「日盌」「月盌」「引出し黒」などなど、歴代教主さまのお作品が光を放っています。

直接のきっかけは、3年前の都内、北とぴあと、鎌倉芸術館のお作品展です。

関東に神さまの大きな燈明がともされたのは100年前、大正5年、神島開きの年です。聖師さまはこの年2度も東上され、本格的な全国宣教が始まりました。当時、綾部の小教団・大本は、「世の立替え立直し」を称え、教勢を飛躍的に伸ばしていきました。

その後、聖師さまは『芸術は宗教の母なり』を説かれ、昭和3年には『子はどうやら育ち上ったらしいので……親たる芸術を育てんと努力しつつある』として明光社（現在の楽天社）を興されました。そして昭和5年2月には一週間、東京上野美術館で聖師お作品展が開催され、『一般来場者16、800人を数えた』と記録されています。

新発足後も、関東では歴代教主さまのお作品が、都内、近隣各地で展覧されてきました。駿河台の瓔珞、日本橋の壺中居、日本橋・三越の二人展、椿山荘、銀座のごらくギャラリーなど……。わたくしには、昭和60年の日本橋・東急の耀盌展がとても印象的です。関西から大勢の青年たちとチャーターバスで夜行し、きらびやかな色彩の数々の耀盌に、眠かった目を一気に覚まされた鮮烈な思い出があります。

尊師さまは『神に通じる門戸として三つある』として、宗教、真理、芸術を挙げ、『美によって神を感じる――これは誰でも入れる』とお示しくださっています。

これからは常時、歴代教主さまのお作品を拝見できます。いろいろな方とご一緒に、お気軽にお越しください。お作品の光に包まれ、天国をお楽しみくだされば幸いです。

東の苑に〝光〟耀く

ギャラリーおほもと（東光苑）オープン！

東京宣教センターの応接室が改修され、お作品展示スペースを増設、照明機器なども充実し、11月13日の東光苑秋季大祭に合わせて新装オープン。新たに教主さまより「ギャラリーおほもと（東光苑）」とご命名いただき、午前9時30分からオープニングセレモニーが行われた。

セレモニーでは始めに、浅田秋彦本部長があいさつ。「聖師さま関東ご巡教100周年のこのときに、奇しくもギャラリーおほもと（東光苑）が開設しました。これからの首都圏宣教が大きく進展することが期待されます」と述べた。続いて、出口文営楽天社代表が「百聞は一見に如かずと申します。上野という芸術の地で、一般の大勢の方々にも大本の芸術を見ていただき、お作品を通して感動を与えることで、大本の精神、み教えをより深く理解していただけると期待しています」と祝辞を述べた。

次いで、浅田本部長、出口楽天社代表によってテープカットが行われ、同日は午後4時30分までに、参拝者ら約300人が来場し、展示されたお作品を拝観した。

新ギャラリーには、開祖さまのお筆先をはじめ聖師さまの耀盌4点、教主さまのお茶盌5点を含む、歴代教主・教主補さまの陶芸や書画など18点が展示されている。

光り輝くお作品、東京での芸術宣教に期待が寄せられている。

聖師さまお作「ミろく」

教主さまお作「月」

ギャラリーおほもと（東光苑）

開館時間

9：30～16：30

無休（作品入替えを除く）

入場無料

お問合わせ・詳細は

Tel 03-3821-3701（代）

大本東京本部 東京宣教センター

東光苑秋季大祭

東光苑秋季大祭・新穀感謝祭・七五三詣りは11月13日、午前10時30分から、斎主・出口文営大本楽天社代表のもと執行され、317人が参拝した。

祭員は関東教区各主会の祭務部長等、少年祭員は東京主会の涌井三四郎くんと成田小巻さん。伶人は二絃の会関東支部、大本神諭拝読は、嶋貫光喜福島主会長、添釜は髙野社中が担当した。

祭典後、大本開祖大祭教主さまごあいさつを拝聴。浅田秋彦本部長が少年祭員の紹介と七五三詣りのお子さんに記念品を贈呈した。本部長は引き続きあいさつに立ち、本年の国内外の教団活動を包括的に紹介した後、「聖師さまは神島開きの大正5年、2度も関東をご巡教になり、以降、入信者が相次ぎ全国規模の教団へと拡大した」と、大本宣教100年を振り返り、「この度の〝ギャラリーおほもと（東光苑）〟の新設は、首都からの宣教に新たな光が射す」と期待を込めた。

次いで『聖師さまと二代さま』と題して出口文営大本楽天社代表が記念講話。「晩年の聖師さまと二代さまは、本当に仲睦まじいご夫婦だったと記憶しています。私が幼いころ、聖師さまが作陶に出かけられる後をよくついていったことも懐かしく思い出します。ある時、祖父の中野苔水に、お若い頃の聖師さまの思い出を尋ねると、祖父は、『聖師さまは誰にでも気軽に声をかけられる方で、知識も深く、物ごと全てに造詣の深い方だった』と語っていました。人間味あふれる素顔の聖師さまが偲ばれます」と、思い出を語った。最後に二絃の会関東支部による八雲琴『高倉山』が奉納された。

また、直会後には直心会千葉連合会と関東教区青年部によるバザーがそれぞれ行われた。

新穀に感謝し、厳粛に神饌が献ぜられた

二絃の会関東支部の奉納「高倉山」

浅田本部長が少年祭員を紹介

大本公開講座

第165回「大本公開講座」は、11月16日午後7時から、港区新橋の航空会館で開催され、小藪資史特派宣伝使が「農は国の大本（たいほん）～今求められる食・農問題～」と題して講話した。参加者は14人（内、一般2人）。

講師は、「大本のみ教えの根本である開祖さまのお筆先に、初期の頃からお土の大切さが一貫して示されている」として、「日本人が長年培ってきた、お日さまやお土さまに感謝し、手を合わせる心が大切」と説き、お土を尊ぶことは農を尊ぶことであり、ひいては国風を守ることに繋がるとして、TPP問題などで日本が揺れる今、農本主義、天産物自給自足の精神に立ち返らねばならないと結んだ。

参加者からは「お土を拝む心や酵素農法についてなど、深く学ぶことができた」、「自宅に狭い土地が放ってあるので、お土を無駄にしないように、すぐに何か植えようと決めました」（信徒・女性）などの声が寄せられた。

「農は国の大本（たいほん）」と題して講話する小藪資史特派宣伝使

大本東京本部ホームページ
URL http://oomoto-tokyo.com

東光苑祭典・行事予定

平成28年12月

11日（日）午前10時30分執行
東光苑月次祭・市杵島姫命例祭

※当日、天声社の出張販売があります。左の亀岡本社へ事前に注文しておくと便利です。
TEL 0771（24）7523
TEL 0771（25）3655

16日（金）午前10時30分執行
開祖聖誕祭（180年）

21日（水）午後7時～8時30分
大本公開講座（航空会館・新橋）
講題　人生にとって大切なもの
～人は何のために生きるのか～
講師　出口　篁（国内愛善宣教課主事）

25日（日）午前10時30分執行
尊師毎年祭（25年）

平成29年1月

1日（祝・日）午前7時執行
新年祭

1日～3日（日～火）各日午前9時30分から
年賀

7日（土）午前10時30分
東光苑七草粥

8日（日）午前10時30分執行
東光苑月次祭・成人式式典

18日（水）午後7時～8時30分
21世紀生きがい講座（航空会館・新橋）
講題　出口なおの預言
～世界の大峠と立替え立直し～
講師　猪子　恒（東京宣教センター次長）

19日（木）午前10時30分執行
聖師毎年祭（69年）